

トラック輸送情報（平成19年5月分）

平成19年8月29日

国土交通省 総合政策局 情報管理部 情報安全・調査課 交通統計室

担当：平野、佐藤 内線28722

直通：03-5253-8346

ホームページ：<http://toukei.mlit.go.jp/>

1. 特別積合せ貨物

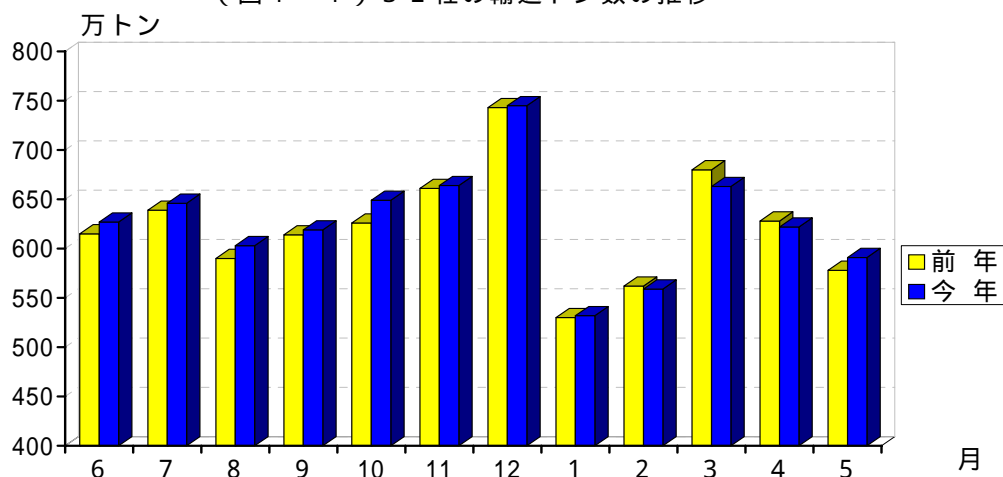
(1) 本月の概況

調査対象32社の本月の輸送量は、5,911,730トンで、前月と比べ総輸送量が約31万トン減少したため、前月比95.1%（季節調整済み102.6%）となり、前年同月との比較では、約13万トン増加したため、前年同月比102.3%の実績であった。

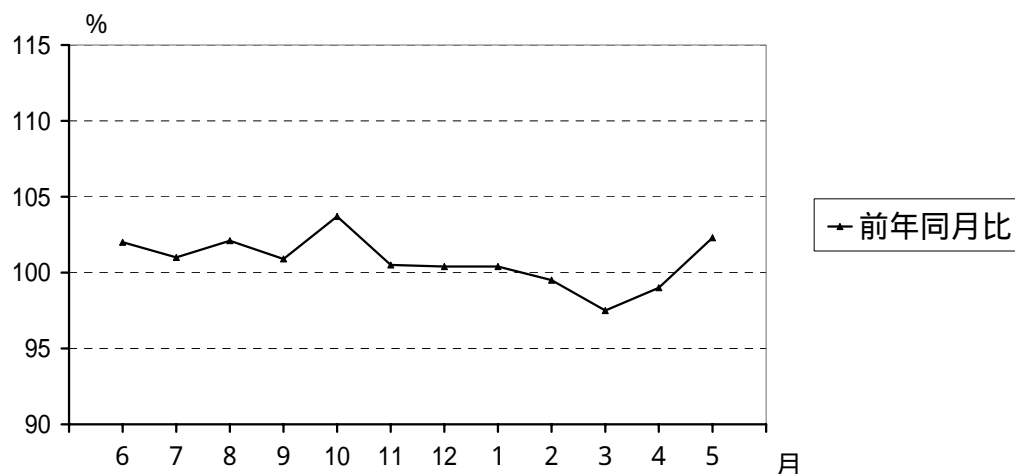
なお、平均稼働日数は23.4日で、前月と比べ0.2日の減少、前年同月と比べると同一の日数であった。稼働1日当たりの輸送量は、252,638トンで、前月と比べ約1万1千トン減少したため、前月比95.9%となり、前年同月との比較では、約6千トン増加したため、前年同月比102.3%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）32社の輸送トン数の推移



（図1-2）32社の輸送トン数の前年同月比

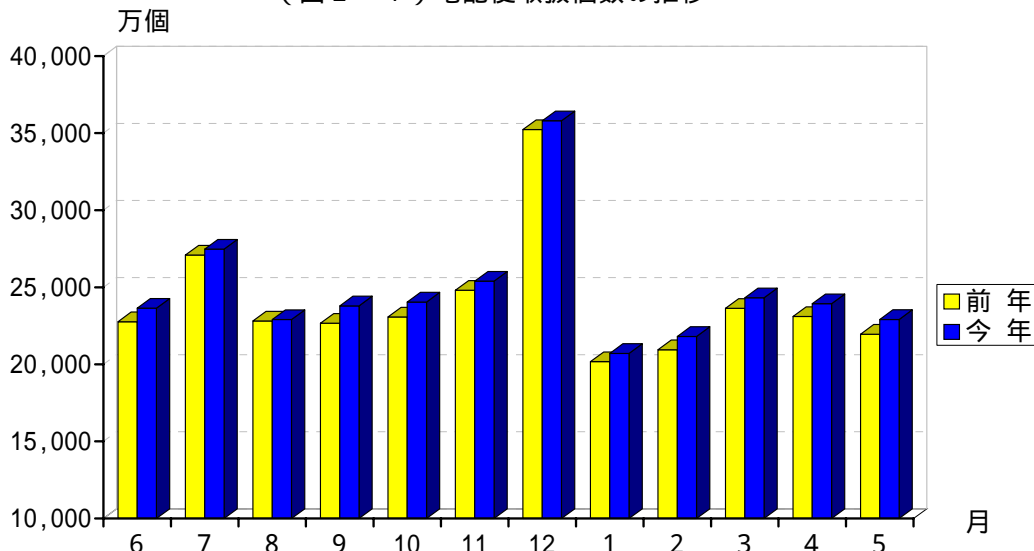


(2) 宅配便の概況

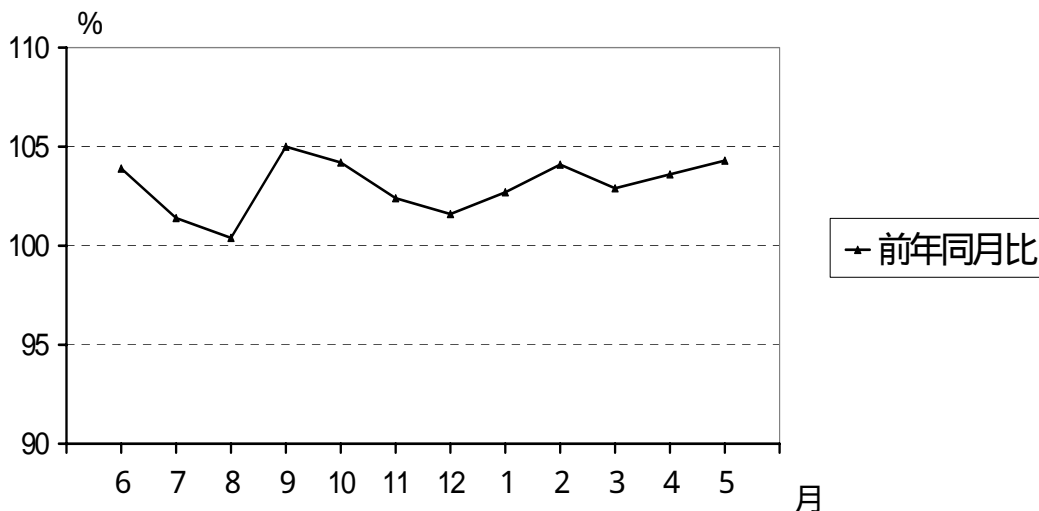
調査対象 19 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、229,080 千個で、前月と比べ約 1,026 万個減少したため、前月比 95.7% (季節調整済み 103.4%) となり、前年同月との比較では、約 953 万個増加したため、前年同月比 104.3% の実績であった。

(図 2 - 1、図 2 - 2 参照)

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、平均稼働日数は同数であったものの、稼働一日当たりの輸送量が減少したこと等により貨物量が減少した。品目別では、「農水産品」及び「機械」に一部増加がみられるものの、減少回答が多くみられた。減少要因としては、主に工場・生産地からの貨物減であったが、日用品については、これに加え商社・問屋からの貨物減及び倉庫から出る貨物減も減少要因となっている。地域的には、「金属製品」が主に関東地方、中部地方、近畿地方等、大都市圏を抱える地域を中心として減少したほか、「機械」が東京、神奈川、北陸信越、大阪、兵庫、九州地方で、「化学工業品」、「食料工業品」及び「日用品」については、ほぼ全国的に減少した。前年同月と比べると、貨物量は 4 ヶ月振りに増加に転じた。全般的には工場・生産地からの貨物増を要因とするものが多く、「機械」が中部で、「化学工業品」、「繊維工業品」及び「食料工業品」が東京・関東を中心として増加した。また、「日用品」については全国的に増加がみられた。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数					主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因
	著増	増	変らず	減	著減			
前 月 に 比 べ て	農水産品	2		14	2	青果物	中国	
	金属製品		2	16	7	その他の金属製品	関東地方、中部地方、近畿地方、中国、福岡	4
	機械	1	2	16	7	機械部品		
						その他の機械	東京、神奈川、北陸信越、大阪、兵庫、九州地方	4
	化学工業品		1	18	9	合成樹脂、その他の化学工業品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、九州地方	4
	繊維工業品		1	23	4		関東地方	4
	食料工業品			12	15	飲料、その他の食料工業品、加工食品	東北、関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方、中国、四国、福岡	4
	日用品			13	14	書籍・印刷物、文具、玩具、その他の日用品	北海道、東北、関東地方、北陸信越、近畿地方、中国	4, 5, 7
	その他	2	3	16	6	宅配便、百貨店配送品	全国	2
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	14	1	農産品、青果物	中国	
	金属製品		2	20	4	その他の金属製品	北陸信越	4
	機械	1	3	20	2	機械部品	中部	4
						その他の機械		
	化学工業品	1	6	20	3	その他の化学工業品	東京、関東、兵庫	4
	繊維工業品		4	25		織物	神奈川、関東	4
	食料工業品		6	20	1	飲料、その他の食料工業品	東北、東京、関東	4, 7
	日用品	1	5	18	4	その他の日用品	全国	4
						書籍・印刷物	中国、九州	9
その他		7	18	3	宅配便、百貨店配送品	全国		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県、九州は沖縄を含む)]単位である。なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2 . 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 835 社 / 調査対象事業者数 1,065 社）の輸送量は、前月比 103.3%、前年同月比 101.9%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北陸信越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前 月 比	103.3%	123.6%	99.0%	95.8%	99.9%	98.4%	99.4%	96.0%	97.9%	96.6%	91.2%
前年同月比	101.9%	101.0%	100.0%	100.7%	109.5%	101.8%	103.8%	105.3%	97.0%	100.2%	115.9%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送は、対前月比は 123.6%、対前年同月比は 101.0%であった。品目別には、春期到来による本格的な建設関係需要増により「砂利・砂・石材」の輸送量に大幅な増加がみられたほか、農作業の本格化により「動植物性飼・肥料」の輸送量にも増加がみられた。一方、「木材」、「揮発油」、「廃棄物」、「取り合せ品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送は、対前月比 99.0%、対前年同月比 100.0%であった。品目別には、建設関係の需要増により「砂利・砂・石材」、「金属製品」、「セメント」等の輸送量が増加したほか、前月に引き続き「鉄鋼」も増加傾向にある。一方、季節的需要減により「穀物」、「揮発油」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに横這い傾向と予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送は、対前月比 95.8%、前年同月比は 100.7%であった。品目別には、商社・問屋からの貨物増等により「日用品」等の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により「金属製品」、「化学肥料」、「紙・パルプ」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
北陸 信越	<p>本月の輸送は、対前月比 99.9%、前年同月比は 109.5%であった。品目別には、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」の輸送量が増加したほか、「非鉄金属」、「化学肥料」の輸送量が増加した。一方、工場・生産地からの貨物減等により「金属製品」、「その他の石油製品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送は、対前月比 98.4%、対前年同月比は 101.8%であった。品目別には、季節的需要増により「食料工業品」、「日用品」の輸送量が増加したほか、「紙・パルプ」等の輸送量が増加した。一方、「金属製品」、「機械」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、対前月比 99.4%、対前年同月比は 103.8%であった。品目別には、季節的需要増により「機械」、「食料工業品」、「その他の製造工業品」等の輸送量が増加した。一方、「金属製品」、「日用品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送は、対前月比 96.0%、対前年同月比は 105.3%であった。品目別には、季節的需要増により「野菜・果物」、「水産品」等が増加したほか、工場・生産地からの貨物増により「機械」の輸送量が増加した。一方、季節的需要減により「その他の製造工業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送は、対前月比 97.9%、対前年同月比は 97.0%であった。品目別には、季節的需要増により「食料工業品」、「日用品」の輸送量が増加した。一方、建設関係の需要減により「砂利・砂・石材」、「廃棄物」の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月は減少傾向、以降は横這い傾向と予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送は、対前月比 96.6%、対前年同月比は 100.2%であった。品目別には、季節的需要増により「穀物」、「野菜・果物」、「食料工業品」の輸送量が増加したほか、「日用品」、「動植物性飼・肥料」等の輸送量も増加した。一方、建設関連の需要減により「砂利・砂・石材」、「セメント」、「廃棄物」等の輸送量が減少したほか、「その他の製造工業品」等の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに減少傾向と予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、対前月比で 91.2%、対前年同月比は 115.9%であった。品目別には、季節的需要増により「食料工業品」の輸送量が増加したほか、「水産品」、「機械」等の輸送量も増加した。一方、先月・先々月において季節的需要増により輸送量が増加した「取り合わせ品」（引越し貨物）の輸送量が減少した。今後の輸送見通しは、次月及び以降ともに増加傾向と予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		増	減	増	減	増	減	増	減	増	減	増
1. 穀物	増				1					2		3
	減	1	5		1							7
2. 野菜・果物	増				1			2	1	4		8
	減		1	1	1			1	2	4		10
3. その他の農産品	増	1			1					2		4
	減	1				1		1		2	1	6
4. 畜産品	増	1				1				1		3
	減							1		2		3
5. 水産品	増	1						2	1	1	1	6
	減	1	1					1				3
6. 木材	増	3	2		1	1				1		8
	減	2	1		1		1			1		6
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増											
	減	1			1							2
9. 金属鉱物	増		1									1
	減		1									1
10. 砂利・砂・石材	増	22	3		2			1		1		29
	減	1	1		3				1	6		12
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1					1		1		4
	減											
12. 鉄鋼	増	1	1				1	2		1		6
	減	1			1		1	2				5
13. 非鉄金属	増				2							2
	減				1		1					2
14. 金属製品	増		2		1		1	1				5
	減	1		3	3	1	2	1				11
15. 機械	増				1		2	2		2	1	8
	減	2		1	1	2	1	1		3		11
16. セメント	増	3	2		1			2		2		10
	減	1				1		2	1	4		9
17. その他の窯業品	増		1		1					1		3
	減	1			1					2		4

品目	運輸局	北海道	東北	関東	北陸 信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
		18. 揮発油	増	1			1					
	減	2	2		1							5
19. その他の石油製品	増	2										2
	減	2	1	1	5			1	1	1		12
20. コークス・ その他の石炭製品	増				1			1				2
	減		1									1
21. 化学薬品	増				1		1					2
	減		1		1			1		1		4
22. 化学肥料	増	1	1		2					1		5
	減		1	2	1			1		1		6
23. その他の化学工業品	増		1					3	1	1		6
	減						1	3				4
24. 紙・パルプ	増			1		3		1		2		7
	減			2				1	1	3	1	8
25. 繊維工業品	増		1							1		2
	減											
26. 食料工業品	増	1	3		1	4	2	2	3	4	1	21
	減	1	3			1	1	4		2		12
27. 日用品	増		1	1		2		3	2	3		12
	減	1					2	3	1	1		8
28. その他の製造工業品	増		1	1			1			2		5
	減		2	1		1		3		4		11
29. 金属くず	増											
	減											
30. その他のくずもの	増									1		1
	減	1										1
31. 動植物性飼・肥料	増	6	1	1						2		10
	減		2							1		3
32. 廃棄物	増	2						2		2		6
	減	2					1		1	6		10
33. 輸送用容器	増	1										1
	減									1		1
34. 取り合せ品	増			1			2		1			4
	減	2	2			2		2		3	3	14
35. その他	増			2	1	1	1			1		6
	減			2	4	1				3	1	11